



千八百七十五年
 新瀉貿易報告
 五

千八百七十五年
 日

3413



千八百

日

414
A 3142
9



百七十九年新潟貿易報告

大正十一年四月

謹テ白ス余閣下ノ指令ヲ奉シ去月十二日
 新潟到着、翌日新潟縣廳ニ赴キ参事南部信親
 ニ面會セリ氏ハ前ノ縣令楠本正隆ノ内務省ニ
 轉任セシニ付当令縣令ヲ代理スルモノナリ氏
 厚ク余ヲ接待シ余ノコトニ至ル所以ヲ語リシ
 ニ當縣關係ノ事柄ノ報知ヲ蒐拾スルニ付テハ
 鮑逆助カスヘキ旨ヲ陳ラレタリ然レ氏ノ説
 話ノ語氣ヲ察スルニ極テ戒慎ノ状アリ

余南部氏ニ向テ第一ニ當港ノ修築ノ為メ「リン
 ド」氏ノ企テ實施スヘキ手續アリタルヲ答テ
 問ヒシニ氏ハコノ事ニ付曾テ東京ノ政府ヨリ
 何タル差圖ヲモ受ケス且近々コノ事業ノ着手
 スヘキ見据ナキ旨ヲ答テ唯相應ノ港ヲ築キシ
 ナラハ大ニ新鴻ノ商業ノ繁榮ヲ増進スヘシト
 唱ヘ居ルノミ其後確實ノ一報ヲ得タルニコノ
 地ノ商人ハ當港修築ノ為メ既ニ拾万弗ノ醵金
 ヲナシ東京ヨリ招待セル工師モ不日來着スハ
 キ由シナリ然ルニ余ノ第二次ノ南部氏ニ面會

ノ時コノ一挙ヲ問ヒシニ氏ハ政府ハ現今當港
 修築ノ意アラフ且右ノ醵金ハ既ニ他事ニ費ヤ
 シタル旨ヲ答ヘリ
 コノ港ノ洲ヲ貫キテ馳スル海峡ノ間ノ水深
 サ九ツ六「フ」ト半ナリ
 余南部氏ニ我カ領事館ノ所有品ニ付注意セラ
 レシ事ヲ謝シ且其物品ヲ一見セン事ヲ望ミシ
 ニ氏ハ一名ノ官吏ヲシテ税関迄余ニ伴ハシメ
 タリ是レ物品ヲ保存セル所ナリ乃チ其一庫ニ
 就キ之ヲ検査セシニ種類負數共都テ「エ」スリ

山氏ノ税関吏ニ渡シ置シ目録ニ符合シ且毫モ
破損ノ状ナシ

先年我カ領事館ナセシ寺院ハ本年五月中燒
失セシカ目今公衆ノ醵金ニテ再建ノ企アリテ
建築最中ナリ

當所税関長橋口氏余ニ語テ曰ク昨年十二月中
當所税関ニテ以役新馮工入港スル英國船ノ証
書ヲ收領スヘキ旨ヲ指令セシ外務卿ヨリ新馮
縣令宛ノ公書ヲ受取リシ以來コノ税関ニテ貳
艘英國船ノ入港出港ノ手續ヲナシタリトコノ

一艘ハ「ジョインマツケ」ト云ヒ四月十四日ニ到
着シ今一艘ハ「リールムウ」ト云フ同月十八日
ニ到着シタルモノナリ

新馮工赴クノ途中寺泊ニ一泊セシニヨリ往年
コノ地ニ染カレシ鑿道ヲ一見スルヲ得タリコ
ノ鑿道ノ西側トモ幾箇所トナク破壊シ尚オコ
ノ上ニモ崩壞スヘキ状アリテ其縁ニ沿テ通行
スルニハ人ヲシテ真ニ危険ノ思ヲ抱カシムコ
ノ工業一昨年ノ冬中廢止ヤレタリシカ本年七
月中信濃川ノ暴漲、為メ非常ニ米作ヲ害セシ

カハ土地ノ農民等ハコノ鑿道ヲ再興センコトヲ
 縣廳ニ歎願シタリシ由ナリ其後南部氏ニ聞タ
 ルニ政府ハ彼輩ノ願意ヲ聞届ケテ遂ニ此事業
 ハ全ク廢タレタリト

信濃川ニハ蒸氣船ノ航通アレ氏其規模甚タ少
 ニシテ唯三艘ノ蒸氣ノ搭客船アリテ日毎ニ新
 潟ヨリ三條長岡龜田迄航通セルト其外ニ貳三
 艘ノ日本船アリテ信濃川ト阿賀野川トヲ連結
 スル溝渠ニ沿フテ新潟ト葛塚トノ間ニ通ヘル
 ノミ尤モ信濃川航通ノ為メ今一艘ノ蒸氣船ノ

拾万兩ニテ買上ラレシ由レ是レ外國船ヨリ荷
 物陸揚ケノ為メ日本政府ヨリ條約面ニヨリテ
 曾テ備ハラレシ蒸氣船新潟凡ノ現今破損セシ
 故コノ「ウチクトリヤ」号即チ神戸凡ヲ買入レコ
 レニ代用セシナラン去余ハコノ神戸凡ハ和
 蘭人カヒテレシノ正氏ノ船長トシ新潟函館ノ
 間ニ往復スル為メニ買入レタリト信スルナ
 リ尤モコノ事ニ付キ南部氏ハ更ニ確トシタル
 言ヲ吐ク三國峠街道ハ全ク修繕ノ功ヲ竣ヘリ
 然レ凡明年ノ末頃ニ至リ新道ノ落成セシ上ハ

コノ街道ハ不用ニ属スヘシ想フニコノ新道ノ
 開通ハ必ス新河ノ貿易上ニ重大ノ變化ヲ生ス
 ヘキモノナリ益シコノ新道ニヨレバ三國街道
 百八拾マイルトシテ新道ニ由レハ東京ト新河トノ
 里程ニ於テ英里五拾マイルトシテ余ヲ減スルノミナ
 ラス又物貨ノ運輸ニ於ケルモ東京ト前橋トノ
 間ノ水運ニ長岡ト新河トノ間ノ水運ニ就
 ヲ得テ即チ次ニ掲ケル路程記ニ見ヘシ如ク
 百七拾マイルノ所ハ水運ニ由ルヲ得陸運ハ唯
 數里ノ間ニシテ而モ可也平坦ノ場所ナレハ随

テ大ニ運賃ヲ減ス可キナリ
 概シテ日本商人ハ外國商人ニ比スレハ貿易上
 ニ於テ些少ノ費用ヲ費スエハ亦些少ノ利潤ニ
 テ嫌レリトスサレハ新河ノ商人モ甘シテ東京
 或ハ横濱ノ低相場ノ市場ニ於テ物貨仕入ノ機
 會アルヲ待テ之ヲ陸路ニテ新河ニ運送スルノ
 時日ヲ費スニハ毫モ閑セサルノ状アリ已ニ今日
 ノ如キ運賃高貴ノ時ニ於テステモ舶來品ノ賣
 捌ニ於テ随分外國人ト競争スルノ勢アリ以
 ニ由テ考レハ右ノ新道ノ開通アルニ由キ運賃

ノ減少スルニ至ラハ新泻ノ商人ハ愈外國商人
 ナシテ非常ニ下落ノ相場ニテ外國品ヲ需シ
 ルニ至リ修港ノ奉アレハ知ラス今日ノ姿ノ新
 泻港ニテハコノ地ハ外國貿易ノ地ヲ拂フニ至
 ル可シ必竟外國人が陸路ニテ物貨ヲ輸送セザル
 ハ途中破損ノ責アリ又雇ノ日本人ノ不注意ヨ
 リ其受取ノ遷延スルアリテ諸リ折耗ヲ醸スエ
 へ不得止海路ニテ物貨ヲ運輸シ日本、他ノ開
 港場ニ送ルヨリモ二倍余ノ船賃保険料ヲ拂
 又其積送船到着ノ上ニ陸揚入費ヲモ拂フモノ

ナリ

コノ新道ノ開通スル上ハ若松縣及其近傍ノ
 地方ニアル日本商人モ今日ニ於ケル如ク横濱
 ニテ物貨ヲ仕入レ仙臺ヲ經テ之ヲ各地方ニ運
 輸スルヨリハ寧ろ新泻ニテ物貨ヲ買入ルノ方
 恐ク下廉ナルヘシ而レテコノ新道ハ蓋シ新泻
 ト東京トノ間ノ貿易ノ一大道路タルニ付左ニ
 通運會社以前ハ陸運會社ト稱セリヨリ得タル
 路程記ヲ掲ケテ之ヲ示スヘシ

東京ヨリ熊谷迄

拾四里三拾丁四拾間

熊谷ヨリ	前橋迄	拾里
前橋ヨリ	白牛迄	四里拾八丁
白牛ヨリ	沼田迄	四里拾八丁
沼田ヨリ	湯榎曾迄	五里
湯榎曾ヨリ	湯原迄	一里拾貳丁
湯原ヨリ	武王迄	二里拾八丁
武王ヨリ	七ツ佐ヶ谷迄	一里
七ツ佐ヶ谷ヨリ	マルセシ迄	一里拾八丁
マルセシヨリ	清水迄	一里
清水ヨリ	長崎迄	一里三拾一丁

長崎ヨリ	六日町迄	一里三拾一丁
六日町ヨリ	長岡迄	十六里
長岡ヨリ	新泻迄	七里
合		七十一里三十二丁四十間

英里九百八拾マイル但日本一里八九英里ニツイハ半トス

新泻港一出入セル英國船ノ船数英噸数ヲ揚ケ又日本
 人所有ノ西洋形船舶ノ船数英噸数ヲ示セル一表及
 当所税関ヨリ寄セラレタル報告ニ基キ編輯シタル
 千八百七十四年九月ヨリ千八百七十五年八月三十日
 二終ル当港輸出入表四枚共併テ呈進ス

右ノ千八百七十四年九月ヨリ七十五年八月ニ
 終ル輸出入表ニテ千八百七十五年一週年間ノ
 当港貿易ノ景況ハ可也臆想スルニ豆ルヘント
 ナ是昨年ノ冬中二三艘ノ日本船ノ当所へ入港
 セシトアリシモ全ク荷物陸揚ノ成リ難キ為メ
 入込シ迄ナレハナリ

右表中ニ示セル金高ノ計算ハ必ス其正当ナルヲ
 保シ難シ然ルモノハ当所税関編製ノ報告書
 ノ体裁不注意ニシテ或ハ量数ノミヲ掲ケ或ハ
 價直ノミヲ示スニヨリ又諸輸入物品ノ過半ハ

横濱ニテ既ニ税ヲ拂々来レル故当所ノ商人ノ
 自儘ノ價直ヲ付スルニヨレハナリ(是レ外國買
 易ノ關係スル處大ヲ以テ云ハ新泻ハ横濱へ輸
 入シタル外國品ノ残品賣捌所ニ彷彿タルノ状
 アレバナリ)

新泻在苗ノ一商人ナルウエーベル氏ハ余ノ右
 ノ表ヲ製スルニ付極テ懇切ニ盡クサレタリ而
 シテ余右ノ表中ニ於テ金高百弗以下ノ物品ハ
 雜貨ノ部ニ加ヘ之ヲ記載シタリ想フニ当所外
 國輸入品ノ内ニテ最モ緊要ノ部分ヲ占タルモ

ノハ鉄、砂糖、水綿糸ナリ本年間鉄ハ價額九万弗
余ノ輸入アリタリ尤一其内円鉄、釘地鉄ノ輸入
多トス燕ニ於テハ巨大ノ釘製造所アリテ職工
手練最モ見ルベキモノアリ圓鉄ハ重ニ抽斗^{ヒキタレ}ノ
金具、石炭、入等ノ製造ニ供セリ延鉄ハ煖炉管ヲ
除キテハ使用極テ稀レニ棒鉄ハ絶テ輸入ナシ
乾魚ハ價額五万弗余ノモノ亟館ヨリ輸入アリ又
塩、奥ハ四方弗余ノモノ大阪ノ近傍ナル亀井ヨ
リ輸入アリ石炭油ハ輸入極テ少シ是レコノ辺
ニテハ家屋街路共石腦油ヲ点スル故ナリ其他

千八百
日

生蠟ノ輸入モ亦アリ
當所ノ輸出品ハ重ニ米ヲ主トセリ依テ縣廳ヨ
リ寄送セラレタル輸出来ノ計表ヲ左ニ掲ク

千八百七十四年第一月ヨリ
十二月マテノ輸出ノ分

玄米 四拾四万千四百貳拾三俵
此金高八拾五万六千貳百九拾壹円八拾
六錢六厘
白米 壹万八千八百拾四俵
此金高三万八千九百六拾六円八拾四錢

合 俵数四拾六万。貳百三拾七俵
金高八拾九万五千貳百五拾八圓七拾錢六厘

千八百七十五年第一月一日ヨリ
八月卅一日マテノ輸出ノ分

玄米

貳拾九万四千七百五十七俵

此金高五拾八万五千七百九拾壹圓五拾
五錢五厘

白米

壹万八千九百拾四俵

此金高三万九千貳百拾六圓八拾四錢

千八百

合 俵数三拾壹万三千六百七拾壹俵

金高九拾貳万五千。拾八圓三拾九錢五厘

則承船ニテ取行ヘル貿易ハ愈増進ノ勢アリテ
前年ヲ報告ニハ輸入高貳百万。三千。貳拾
六弗輸出高百七十万。六百四拾弗ノ計美ヲ掲
クシテ本年ハ八月三十一日迄ノ分ニテ既ニ輸
入高五拾九万八千四百。五弗輸出高七十三万
三千六百九拾八弗ニ及ビタリ尤モコノ輸出高
ノ内五拾七万四千。六弗ハ大阪一輸出シタ
ル米代ヲ記セルナリ乍去外国船ニテノ輸入ハ

客年ニ比テ極テ僅カノ増加アルノミ
 現今新泻在留ノ外国人拾三名内貳名ハ商人三
 名ハ傳教師余ハ日本政府ノ雇人タリ
 本年信濃川ノ暴漲ノ為メ作物ノ水害ヲ被リシ
 景状ニ付キ種々ノ卷説アレ氏南部氏ノ余ニ語
 レルニハ新泻近傍ニテ三十拾万石ノ損害アリテ
 縣廳ヨリコノ洪水ニ付キ家作地面等ノ損失セ
 シ窮民救恤ノ為メ七拾貳万圓ヲ下付セシ由コ
 ノ水害ノ為メ米價非常ニ騰貴シ前年一月頃ニ
 ハ一圓コルニ付キ米價尙四十五拾錢位ノ相場ナ

リシモ去月中ニハ貳圓八拾錢ヨリ三圓ニ登リ
 尙石(拾石ハ英ノ五ツシヤルニ當ル)ニ付キ小賣相場八圓五拾
 錢ナリ

余ハ斯ニ新泻ノ米相場所ノ景状ヲ申述スヘ
 シ世人ノ談話ニヨレハ日本政府ハエノ會社ヨ
 リ莫大ノ金額ヲ徴収スト云フ然レ氏南部氏ノ
 語ハ所ニテハエノ會社ハ私立ノ會社ニテ政
 府ハ決テ何モノヲモ受取ラスト云去南部氏ノ
 説ハ悉ク信シ難シ聞クエノ會社ハ五拾名ノ社
 員ニテ成立キ其社員ハ入社ノ節何レモ入社金

五拾弗ヲ差出スモノトス扱テソノ賣買ハ競賣
 法ヲ用テ高價ノモノヲ落札人トスコノ落札人
 ハ買入約定ノ時五分ノ約定金ヲ差入ルヲ常ト
 ス而テ若モ其日ヨリ十日ヲ過キテハ同人ハ約
 定金ヲ捨テ、コノ取引ヲ止マルカ又ハ今五分
 ノ約定金ヲ出シテコノ取引ヲナスカ何レモ同
 人ノ并宜ニ從フコノ取引ノ米ハ現月ノ米ニ至
 リ讓渡ヲナシ代價ハ其時ノ相場ニ從テ拂入ル
 ルモノト定ム余ハ日本政府カコノ會社ヨリ幾
 何ノ歩合ヲ徵收スルヤ否ヲ察見スル能ハス乍

去世人ノ説ニ據レハ此社員ハ政府カ今少ク苛
 収ヲ緩フスルニ非レハ十一月中ニ開社スルキ
 見込アリテ既ニ四名ノ代人ハコノ事柄ニ付キ
 政府ヘ上申ノ筋アリ東京ニ赴キ申由ナリ
 縣廳ニテノ出版ノ表ニヨレハ新潟縣下ノ産米
 百五拾五万千口五拾石コノ金高六百拾八万七
 千九百九拾七円ニテ此ノ貢税百六拾六万千四
 百八拾貳円ナリ
 客年横濱ニ輸送セレ奈ハ極テ些少ナリ是レ横
 濱相場ノ下落ト製茶人ノ買入ニ利潤ヲ得セシ

此程ノ低相場ニテ賣販スルヲ嫌フトニ由ル
 ナリ斯ル景况故茶ノ相場ヲ引落サシムルカ為メ
 多量ノ製造人ハ組合ヲ結ビ少量ノ製造人ノ茶
 ヲ買占タリ客年内地ニ輸送セシ茶ノ相場一日
 コハ貳円五拾銭ナリ
 同年当縣下茶ノ産出高三拾万〇六千貳百八拾
 八「ガツチ」ナリ未タ當年ノ統計表ノ編制ナ
 シ當國ノ産茶場ハ村上黒川新發田新津村松五
 泉ヲ最トス
 本年石腦油ノ産出前年ニ倍シ千八百七十四年

ニハ三千貳百六拾四石ノ産出ナリシモ當年ハ
 六月三十日マテノ半週年間ニ於テ已ニ三千三
 百六十八石ノ産出アリ
 当縣下ノ内ニテ石腦油ノ井數五拾九箇所アリ
 即^頸到城郡ニ二十四ヶ所刈羽ニ拾ヶ所三島ニ五
 ヲ所蒲原ニ二十ヶ所ナリ此ノ石腦油製造ノ為メ
 設ケラレル会社三四組アリ就中石坂周造ノ管
 理セルモノヲ最トス尤同人ハ已ニ六ヶ年前退
 社シタリ此ノ石腦油製造ノ事業ハ重ニ千八百
 七十四年二月中長野縣下ノ一邑ナルレンコイニ設

タル製油所ニテ執行レタリ此製油所ハ西洋凡
ノ建築ニシテ器械モ可ナリ整ヒ一ヶ月ニ六拾
石ヲ釀造スルヨシニテ尙升^英ノ價七^三セシ
トナリト尤新泻辺ニテ用フル石腦油ハ近傍ノ
タ、ミ、ヒサシ富原ヨリ来ルモノヲ多シトス乍
去何レノ製造所モ未夕外國ノ器械ヲ用ヒス
石炭ノ産出モ亦増進ス千八百七十四年ニハ拾
貳萬千九百貳拾貫目^{九英}ノ四百五十^噸ヲ産出セシガ
千八百七十五年ニハ半週年ニテ已ニ八万貳千
四百四拾八貫ヲ産出セリ此炭坑ハ蒲原郡ハ赤

谷村酒井小室及ビ岩船郡ノ布辺村押村ニカ
モノヲ巨擘トス
礦山ノコトニ付テハ南部氏又其他何人ヨリモ
確實ノ一報ヲ得ス
銅山ハ三島郡ノ間瀬村野積村又蒲原郡ノ弥彦
村ヲタシ村ニ在リ
銀山ハ魚沼郡ノ大栃村及ビ下ヲニタチ村ニ在
リ然レド何レノ礦山モ外國人ノ管理スルモノ
ナリ又外國ノ器械ヲ用ヒガ
余新泻滞在ノ日同所ニアル獄舎、学校、病院ヲ一

見スルヲ得タリ今之ヲ略述スベシ
 獄舎ト驚クマキ美麗ノモノニテ更ニ罪人ヲ入
 ルベキ所トハ見做シ難キ程ナリ其室内ヲ見ル
 ニ廣クシテ空氣ノ流通極テ善ク罪人モ四方ヲ
 眺望スルヲ得テ恰モ平人ノ一室ニ閉居スルノ思
 ヲナスニ似タリ概シテ犯罪人ノ食料一日米売
 合餘此英ノ意「キル」ニシテ隔日ニ稟類野菜ヲ附ス又
 懲役人ハ犯罪人ニ比スレハ倍ノ食料ヲ受ク然
 シテ此ノ懲役人ハ獄舎ノ構内ニアリテ抄紙場
 并米搗場建築ノ為或ハ瓦ヲ製シ或ハ材木ヲ切

リ或ハ經營ニ従事スルモノアリ又懲役人ハ一
 日八錢ノ賃銀ニテ此府下ノモノニ在ル、事ア
 リテ時トシテハ鎖モナク歩行スルアレトモ如
 是人ヲ自由ニ市街ニ徘徊セシムルハ甚タ不條
 理ノ事ナリ尤モ右ニ云ヘル抄紙場米搗場落成
 ノ上ハ獄舎ノ構内ニテ各其職業ニ従事スベシ
 現今懲役人貳百〇七人内男百九拾貳人女拾五
 人重罪裁判ヲ仰クモノ五拾三人終身懲役ノモ
 ノ尙人不審繫獄ノモノ六拾貳人ナリ
 当縣ニハ小学校ノ外ニ三大學校アリ語學校師

範学校、縣立学校アリ、語学校、師範学校ハ文部省
 ノ設立ニ係ル而シテ此語学校ハ外國ノ語学
 ヲ教ヘ他日東京ノ開成学校ニ登ルモノ、為ニ
 ス東京、名古屋、大坂、廣島、宮城、青森ニモ此ノ設
 リ教課ハ本課餘課ノ二類ニ分テ各三年ヲ以テ
 卒業ノ期トス入校ノ年齢拾三歳ヨリ拾八歳ノ
 モノヲ限ル謝金上等志ケ月志田中等五拾錢ヲ
 徴ス尤生徒ノ父母ヨリ定規ノ謝金ヲ納メ難キ
 事由ヲ證明スルトキハ今一層僅カノ謝金ニテ
 モ可ナリトス

目今生徒ノ人員寄宿生拾錢ヲ納ムル者四拾名通
 学生六拾名教課ハ米國ノ一博士ウイフチヨ
 フ氏はヲ管督ス現今講堂、教師館ノ新築中ナリ
 多分当月ノ末ニハ落成スヘシ
 師範学校ハ千八百七拾四年九月中ノ設立ニ係
 ル此ノ学校ハ小学教員ノ教育ノ為ニ設タルモ
 ノニシテ更ニ外国語学ヲ脩シメス通常入校年
 齡三十歳以上入校ノ者ハ賄料ヲ込メ志ケ月八
 円ヲ納ム
 此ノ学校ノ建物ハ西洋風ノ建築ニテ新泻縣下

ノ壯館ノ一ニ居ル現今寄宿生ノ為メ一二ノ傍
 舎ヲ建築ス愛知、宮城、廣島、東京、馬關、長崎ニモコ
 ノ設アリ又コノ構内ニ小學校アリ氏家ノ子弟
 些少ノ月謝ニテ此ニ教育ヲ受ク此師範學校ニ
 テ卒業ノ者ヲ教員ニ撰ミ各地ノ小學校ニ發遣
 ス

縣立學校ハ英人モス氏ノ督スル所タリ分校長
 岡、柏崎、高田、新發田四ヶ所ニアリ
 病院ハ規模狭少ニシテ説述スヘキモノ少シ其
 病室唯患者三十五人ヲ容ルヘキニテ庭場

至テ狭ク空氣ノ流通甚タ惡シ此ノ病院ハ和蘭
 醫學博士ボルトンヘーデン氏之ヲ督ス氏ハ才
 能氣カアルノ人ナレハ縣官ニ勸メテ異日此ノ
 病院ヲ擴張スルハ疑ヲ容レヌ目今氏ハ生徒百
 名ノ教授ヲ擔任シ毎日午前九時ヨリ十時迄醫
 學ノ講義ヲナセリ此病院ニハ外科道具ハ甚乏
 シキカ精練局ハ可也賞スヘキモノタリ
 新潟都府ノ人口允三万四千人全縣人口百三十拾
 八万八千三百五拾三人内男六拾九万六千七百
 三拾七人女六拾九万千六百貳拾貳人ナリ

一般ノ景況

本年間新泻縣ノ一大沿革ハ六月廿二日新泻裁
 判所ノ設立アルニ付キ縣廳ノ行政事務ヨリ司
 法ノ事務ヲ分離スル事ナリキ此裁判所ハ堤正巳
 先屬官之ヲ管ス全一日堤氏ヲ尋訪セシニ氏ハ
 下等人民ノ頑固ト無學ナルヨリ裁判上甚々困
 難ナル旨ヲ歎息シテ語レリ都テ此遣ノ人民ハ
 執迷ノ惡習ト外國ノ傳教師ヲ忌ムノ弊風アル
 ニヨリ一層罪過ヲ醸ス事少クラストス已ニ頃
 日日本ノ僧侶數名徒黨シテ耶蘇教師ノ家ニ暴

進ニ家財ヲ破却セシカハ縣廳ヨリ為ニ巡査一
 名ヲ送り警備セシメタリニ事アリ以テ一証ト
 スハシ
 近頃依渡ノ税関ヲ相川縣ヨリ分離シ新泻税関
 ニ屬セシメ之ヲ他ノ開港場ニ於ル如ク租税
 緊ニテ直轄スヘキ目論見アリ想フニ税関ノミ
 ナラス依渡全國モ新泻縣ニ附屬セラルヘキノ
 状アリ然レモ南部氏ハ昔テ之ヲ確言セサリト
 新泻ノ市街ハ依然莊麗^敬賑ノ一都會ノ状ヲ存
 シテ更ニ楠本縣令在任ノ日ニ異ナラス現今字

校ノ新築及々裁判所ノ新築モ稍落成シ又街路
 モ益廣ク^且一ニノ新道ノ修築アリタレハ何レ
 へ眼目ヲ放ツモ人ヲシテ噴ニ繁華ノ思ヲ抱カ
 シム乍去常所ニテ怪ム可キハ水吐モ能ク市街
 モ清淨ナル^瘧熱病ノ流行スルヲ見レハ健康
 ノ地トハ見做シ難シ是蓋シ縦横ニ市街ヲ横断
 スル溝渠ト信濃川ト蒸突氣ノ過度ナルニヨルモ
 ノナリ

近來當地ノ人民モ日本ノ大都會ノ人ノ如ク外
 國發明ノ器械ヲ用ヒ始メ已ニ蒸氣仕掛ノ米搗

車ノ設ケアリ又葡萄酒製造ノ為メ一會社創
 立アリテ伊太利人ヲ司長トナスヘキ企アリシ
 カコノ事ハ正ニタリ想フニ當國ハ葡萄ノ盛ニ
 産殖スル所ナレバコノ成業ハ得テ期スヘシ又
 靴帽子ノ製造アリ舶來品賣所ハ日ニ開店アリ
 聞ク當地ノ人民ニテ夏時雪塊ヲ齧クヲ以テ業
 トスルモノ貳千人ニ下ラスト其因法降雪ノ候
 海岸ニ沿ヘル小丘ノ砂場ニ穴ヲ穿テ之ニ降雪
 ヲ積ラシメ晩冬ニ至テ之ヲ蔽塞スト此雪ハ貳
 ケ年間モ消失セサル由ナリ

新瀉ハ又婦人ノ負多キト美人ノ稱呼アル所ニ
 シテ目今旅人宿ニテ貸坐敷ヲ兼ルモノ貳百五
 拾ハ軒藝娼妓ノ稅貳萬貳千五百圓ナリ又日本
 政府ハ当所ノ肥代黨ヨリ巨額ノ收入ヲナス由
 以前以此地ノ人民モ東京其他ノ都府ノ人ニ於
 ケル如ク自家ノ肥ヲ賣ルノ權利アリシカ前縣
 令楠本氏之ヲ禁シタリ而テ昨年ハ寺名ノ請願
 人ヨリ肥代三萬圓ヲ縣廳ニ納メシカ本年ハ貳
 拾名ノ請願人ニテ肥代トシテ寺名毎ニ一日拾
 五圓宛ヲ上納スヘキ旨ヲ約定セリト此ノ肥代

ハ道路橋梁修繕費ニ供ス可キ由ナリシカ思シ
 テ然ルヤ否ヤハ保証シ難シ詰リ是等ノ口實ニ
 テ新瀉縣官カ他縣ニ於ル如ク公金私用ノ詭術
 ナ行フニ疑ナシトス實ニ前年モ種々ノ名義ニ
 テ人民ヨリ金錢ヲ苛収セルト少カラス今其一
 ニテ奉レハ先年廩稅ヲ賦セリ當時人民ハ不暇
 ナカラモ之ヲ破却セハ冬季降雪ノ時家屋ノ支
 ヘヲ失ヒ又市街積雪三四尺ニ及ヘル時ノ商業
 場所ヲ喪フヲ恐レ止ラ得ス此程ヲ拂ヒタリ尤
 モ當今ハ廢止セリ又火葬ヲ禁止シ一定ノ墓地

ヲ設ケ死人ヲ其場所ニ埋葬シ寺坪ニ付五円ノ
 代價ヲ納ムヘキ旨ヲ布令レタリ乍去人民ハ之ヲ
 肯セスンテ私ニ死人ヲ小丘或ハ弁宜ノ地ニ埋
 葬スルニヨリ縣廳ハ此ノ布達ヲ取消シ火葬ノ
 禁モ随テ^縁ミタリ
 織物ノ業ハ盛ニ新塚、三國、三條、豊田ニテ行レリ
 而シテ新泻ニ輸入セル外國ノ木綿糸ハ過半日
 本ノ木綿糸ト取交セ之ヲ織出セリ新塚ハ北國
 ノ地方松前辺迄モ織物ヲ送レリ然ルニ二三年
 未此ノ商業頓ニ衰微シケレハ織匠等ハ近且諸

國ノ佛宇佛祠ノ廢レタルヨリ開帳祭、礼等ノ事
 ナキカ為メ衣服ノ賣捌ケサル旨ヲ歎ケリ此辺
 ノ人ノ衣服ノ織出、形付、染出ノ業ヲナスハ概シ
 テ農隙ニ於ラスト云フ
 余南部氏ニ日本政府ハ敦賀ト大坂トノ間ニ鉄
 道ヲ築クベキ目論見アルヤ否又氏ハ此ノ鉄道落
 成ノ上ハ如何ナル影響ヲ新泻ニ乘スヘキト思
 へルヤヲ問シニ氏ハ唯之レカ為メ新泻ノ繁盛ヲ
 増進スヘシト答ル迄ニテ更ニ意見アラサルニ
 似タリ

白川ト新発田ノ間ニ電線ヲ架スル由ナリ之未
此鎮臺兵營ハ新瀉ニ設アリシカ故アリテ先頃
新発田ニ移レリ

察スルニ閣下ハ此ノ報告ヲ見テ必ス粗漏不完
ノ歎ヲ發スヘシ然レモ余ノ新瀉滞在ノ日タル
ヤ僅ニ八日ニシテ深ク穿鑿ヲ遂ケル暇アラ
ス且此ノ編製スル所ノモノハ全ク日本官吏ヨ
リ寄テレタル統計ニ憑リ加之日耳曼領事リ
シユル氏モ不在ナレハ彼是隔靴ノ歎ヲキヲ得
ス尤モエーアル、ウエーブル氏ニハ新瀉關係ノ諸

事ニ付キ多少ノ告知ヲ得タリ是レ實ニ謝スル所
ナリ

以上余カ東京出發ノ時閣下ヨリ授付サレシ箇
條書ニ付余ノ穿鑿推考ニ得シ大ケノ報答ヲナ
シタルモノナリ閣下支レ之ヲ諒セヨ

於東京

千八百七十五年十月四日

タフリュー、マク、ウーレー

署名

サー、ハーレー、パークス閣下

千八百一

日

千八百七

物 品 種 類

金 巾

木綿糸天金巾

木綿布

木綿糸

綿 繻子

砂 糖

鉄

酒 英 燒 酒

乾 魚

雜 貨

總

計

千八百七十

物 品 種 類

茶

米

雜 貨

總

計

總

計

千八百七十四年第十月ヨリ千八百七十五年第八月マテノ間
 外國船ニテ新瀉ニ輸入セシ物品報告表
 (日本ノ開港場ヨリ)

物品種類	價	圓
金巾		二〇,四八七
水綿糸共金巾		六,七六〇
水綿布		一七,七五〇
水綿糸		二五,三三六
綿繻子		一,三五六
砂糖		五三,六六三
鉄		一八,二七二
酒共焼酒		一,六四八
乾魚		二,八三〇
雜貨		三,八二一
總計		一五一,四一七

千八百七十四年第十月ヨリ千八百七十五年第八月マテノ間
 外國船ニテ新瀉ヨリ輸出セシ物品報告表

物品種類	價	圓
茶		八三,八九
米		一,六八一
雜貨		六,二五
總計		二九,六九一

千八百七十五年第一月一日ヨリ第八月三十一日迄ノ間
日本商船ニテ新瀉工輸入セシ物品報告表

種	類	價	種	類	價
茶		一,七一一	燭	心	一,五九
塩		四二九一四	煙	煤	一,八〇
藍		一八,九七五	美	藍	五八八
墨	汁	四四四〇	海	草	二六六〇
麻		五,四四〇	ク	口ク入	一,六五七
酒		三,四四七	米		三,〇〇四
鏡		四八四〇	白砂	糖	二七七四六
扇		一,六五八	赤砂	糖	七三三三三
氷	砂糖	一,七九〇	醬	油	一,八〇
日本	卧具	三,一〇一	砥	石	一,一一
古	着	二,三一二	木	綿	三六,四一
日本	製帽子	五,四三六	陶	品	三四,四八七
木	材	一,八八七	乾	魚	二,三三八
日本	製摺符木	一七,九一三	脂		五九,五〇八
鏡		五二,二六五	紙		八五,九〇一
鏡		五,八四三	蜂	密	三,七八六
銅		二,九〇一	糖	菓	一,〇〇四
古	鏡	一,五四〇	索	麵	五八,九四
锚		一,八八五	塩	罽	八,七四八
煙	草	四,五一五	木	二ト(魚石)	六,五三六
粗	木綿織物	一,三六五	鯨		四,〇四五
竹		一,三七六	酒	渣	五,八一四
衣	類	七,七二六	菜	油	四,三四一
木	炭	三,三四四	青	魚	二八,五〇七
木	薬品	八,五〇六	同		一,四九九
綿	紗	一,四九八	魚	油	一,一八五
年		一,七五一	雜		一三,三八五
石	灰	一,六二三			
魚	卵	一,〇〇八			
帆	桅	一,〇四八			
總	計				五九,八四〇五

圓	實
九八四〇二	
〇六六六	
〇五六一	
六三三二	
六五三一	
三六六三	
三二八一	
八四六一	
〇三八二	
一三八三	
九一四一	

圓	實
五八三八	
一八六一	
五二六	
一六六二	

千八百七十四年第十月ヨリ千八百七十五年第八月マラノ間
 日本人所有ノ外國船ニテ新瀉港輸出入物品報告表
 輸入

物品種類	價 円
金 巾	一五九二五
木綿糸	一一一六〇
砂糖	九六七一
錠	一九二六二
藥品	二〇〇八
窓硝子	一七五五
酒 類	一一一〇
器 械	二〇五四
雜 貨	五二六五
總 計	六八一二〇

輸 出

物品種類	價 円
鉛	二一九二
鋳 具	二七四〇
米	二九三一九
雜 貨	二二四〇
總 計	三六四九一

計

一五九二五
一一一六〇
九六七一
一九二六二
二〇〇八
一七五五
一一一〇
二〇五四
五二六五
六八一二〇
二一九二
二七四〇
二九三一九
二二四〇
三六四九一
五〇四八式五

千八百七十五年第一月一日ヨリ第八月三十一日迄ノ間
日本商船ニテ新瀉ヨリ輸出セシ物品報告表

種類	價	種類	價
米	五七四〇〇六	鍬 具	一、二九二
赤砂糖	二四〇一	煙 草	二、〇二六
醬 油	三三二七	塗 物	一、四六九
木綿布	六九七八	茶	一、二七五
司 馬 毛	一七〇四六	小 麦	三、二九八
疊	二七一	塩	二、八六一
梨	七三三三	藍	一、一七一
糖 菓	一〇三八	雨 具	一、四〇二
ボート (魚名)	一三二二	酒	三三、八九〇
乾 鰯 魚	一九〇一三	味 噌	一、二七九
豆	六一四七	蠟 燭 (味梨)	四、四〇二
油 渣	一〇一三	杉 材	三、五三五
菜 油	一〇六六	香	一、一五九
提 灯	一〇六三〇	雜 貨	二、五八七
摺 子 木	二一九八		
鏡	三一五八	總 計	七三三、六九八
陶 器	三六六七		

間 (三) 米

田 買

五二、二五二
〇、六一一
一、六六六
二、二一五
八〇〇二
五、五六一
〇、一三二
四、四〇二
五、六一五
〇、二一八六

田 買

二、二一五
〇、四六二
五、一三八二
〇、四二二
一、四六三

千八百七十四年十月ヨリ千八百七十二年八月迄ノ間

新潟港ニ出入シタル外国船報告表

國名	入港ノ部		出港ノ部	
	船数	噸数	船数	噸数
英國	四	一九八五	四	一九八五

一七

千八百七十四年十月ヨリ千八百七十五年八月迄ノ間

新潟港出入ノ日本人所有西洋形商船報告表

種類	入港ノ部		出港ノ部	
	船数	噸数	船類	噸数
蒸氣船	六	一、五一〇	六	三、五一〇
帆船		四〇二	二	四〇二

買

船

二〇二、一

六三〇、二

式六四、一

五、二一一

八、二二三

一、六八、二

一、六一、一

二〇四、一

〇、六八、三三

式六二、一

一〇四、四

式三三、二

式五、一

六八、五、二

式六、三、三

間(三日一十三日)

春吉辨品辨

間(三月八日)

春吉辨

時	出	
時	辨	辨
日八十一	日	日八十一

間(三月八日)

春吉辨

時	出	
時	辨	辨
日八十一	日	日八十一

間（三日一十三日）
春寺辨品辨